



今月の題字
荒川 奈津美 ちゃん
(船越小5年)

「町のわたい」

「花壇植え付け講習会」に55人 デザインや管理方法を学ぶ

6月10日、県緑化推進委員会山田支部協議会主催の「花壇植え付け講習会」が大沢地区の国道花壇で開かれました。緑化技術の向上を目的に初めて開かれたもので、老人クラブや自治会の代表など55人が参加。宮古農業改良普及センターの佐々木洋一主任改良普及員を講師に、デザインや土作り、管理方法などについて学びました。参加者は講師の説明の後、早速、植え付け作業に取り掛かり、苗を花壇のデザインどおり丁寧に植え付けていました。8月中旬には色鮮やかな花が通行人の目を楽しませてくれそうです。



漁協合併推進協議会の初会合 再編へ向けた検討始まる

6月15日、山田地区漁業協同組合合併推進協議会の初会合が町中央公民館で開かれました。町内5漁協の合併に向けての問題の整理や、新たな漁協の在るべき姿を検討する場として設置されたもので、各漁協の組合長など40人が出席。会の規約が承認された後、今後の取り組みとして「来年6月ごろまでに合併計画の原案をまとめ組合員への説明会を開催。同11月ごろに合併総会を開きたい」との見通しが示されました。会長、副会長の選出は、3漁協が役員改選を控えていることから次の会合で行うことになりました。

ノンフィクション作家 吉永みち子さんが講演 いつでも自分の道に向かって

町生涯学習推進本部主催の「マナビィ、ネットワーク in やまだ特別講演会」が6月6日、中央公民館で開かれました。講師はノンフィクション作家の吉永みち子さん。「自分らしく生きる」と題して、会場に詰め掛けた町民550人の聴衆を前に講演しました。吉永さんは、男性社会で自分の生きる道を切り開いてきた経験から、「男らしさ、女らしさにとらわれず、いつでも自分の道に向かって進んでほしい。それが自分らしく生きるということ」と熱く語りました。



「八千代いどばた会館」が完成 コミュニティ活動の拠点に

6月26日、八千代地区自治会(吉川義男会長・84世帯)では、コミュニティ活動の拠点となる「八千代いどばた会館」の完成を記念し、「会館まつり」を開きました。会館は、子供から高齢者まで気軽に利用できる集会施設にと、自治会の皆さんが町から旧診療所の使用許可を得て建物の修繕を行い、4月に完成したものです。同まつりには会員など30人が参加。童話かるたやトランプ、ゲームで親ぼくを深めるほか、昔ながらのホオ葉で包んだ赤飯なども振る舞われるなど、新しい活動拠点の完成を祝っていました。



房の沢古墳群で調査報告会 古代ロマンに思いを巡らす

「房の沢古墳群」の確認調査報告会が5月29日、現地で開かれました。同古墳群の発掘調査を進めている町教育委員会が主催したもので、昨年5月と今年5月の2回の調査で発見された古墳を公開。当日は町内外から45人の考古学ファンが訪れ、調査成果を聞きながら古代ロマンに浸っていました。同古墳群は山田北小学校裏の標高50mの丘に位置し、古墳時代末期から奈良時代にかけてつくられたものです。これまでに大小35基の古墳が見つかっており、今回の調査で新たに4基の古墳を確認。うち1基は直径8mもある大型のものでした。古墳の分布状況から、同古墳群は細い尾根の傾斜の緩い部分を選んで古墳が構築されていることが分かりました。世界遺産を目指す平泉文化の基礎となった蝦夷社会を知る貴重な資料として注目を浴びています。



環境保全協定書調印



環境保全協定の三者調印式 互いの発展願いガッチリ握手

6月15日、町と東豊間根自治会・繫地区(伊藤進一地区会長)、農事組合法人工コファーム山田(芳賀敏代表理事)三者による環境保全協定の調印式が繫集落センターで行われました。これは10月末に完成予定の堆肥センターの運営に関し、地域住民の健康の保護、生活環境の保全のため締結されたもので、式には沼崎喜一町長と伊藤地区会長、芳賀代表理事ら15人が出席。沼崎町長は「三者がお互いに意思の疎通を欠かさないう、未永いお付き合いをお願いしたい」とあいさつしました。環境保全協定書にそれぞれ調印し交換、お互いの発展を願い固い握手を交わしました。